

第2学年1組 社会科指導案

1 単元 「日本の近代化」

2 本時

(1) 本時の指導観 平成31年2月28日(木) 第5校時

前時までに生徒は本単元の目標である「」をするために「」という学習テーマを立て、意欲的に追究している。また、ロシアが不凍港を求めてアジア方面へ南下政策をとろうとしたことは学習している。本時では、ロシアの南下政策に対し、日本が朝鮮半島を支配し、そこを防波堤としてロシアとの決戦に挑もうとしたこと。そのために日本は朝鮮へと圧力をかけるが、宗主国である清がそれを許さず、日清戦争が勃発したことを資料から読み取り、考察する活動をねらいとしている。

(2) 主眼

○日本と清が戦争になった理由は、ロシアの南下政策に、日本を戦場にするのを防ぐために朝鮮を支配しようとした日本に対し、それを宗主国であった清が許さなかったからであることを説明することができる。

(3) 準備

①教科書 ②学習プリント ③資料

(4) 過程

学習活動・内容	具体的な手だて	形態	配時
1. 本時の学習の方向性を確認する。 (1)自分たちの身の周りにおける事象についての風刺画 が何を表しているのかを考える。 ・スマホ依存 (スマホに支配されている現代) ・たばこ (高い税金がかかっている) ・諦める (あと一歩なのに諦めたら意味ない)	○風刺画を意欲的に考えさせるために、自分たちの生活に関係のある風刺画を提示する。 ○本時の学習意欲を高めるために、ロシアと対立していた日本が、先に清と戦争になる「ズレ」を問う。	一斉	5
(2)日清戦争を題材にした風刺画を提示し、それが何を表しているのかを考える。 ・日本と清が朝鮮を支配しようとしており、さらに ロシアが漁夫の利を得ようと狙っている。	○日本と清が戦争になったきっかけである	個	10
(3)めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ、日本は清と戦争になったのか考えよう。</div>	甲午農民戦争が起きた背景を考えさせるために、当時の朝鮮の状況を簡単に示した漫画を提示する。 ●日清戦争が起きたきっかけを風刺画や資料をもとに説明することができる (知識・技能)	一斉	20
2. 日本と清が戦争になった理由を探究する。 (1)朝鮮で起きた甲午農民戦争に、日本と清がどのように対応したのか確認する。 【清】朝鮮政府から援助を求められた宗主国である清は援軍を派遣した。 【日】日本はこのままでは清に朝鮮を支配されてしまうので、軍を派遣した。 →日清ともに出兵し、戦争へ(日清戦争)	○なぜ日本は朝鮮を支配したかったのか考えさせるために、「勝海舟による江戸城の開城の理由」と「沖縄でのみ地上戦が行われた理由」を同時に提示する。 ○当時、ロシアがいかに脅威だったが意識させるために、ロシアの対馬占領の資料を提示する。また、蝦夷地を北海道とし、屯田兵を置いた意味も想起させる。 ●他の歴史的事象と比較・関連付け、日本の朝鮮支配の理由を説明できる。 (思考・判断・表現)	個	20
(2)なぜ日本は朝鮮を支配したかったのか考える。 【勝海舟による江戸城の開城】 勝海舟は、新政府軍との戦いに際し、江戸を戦場にするのを防ぐために江戸城を無血開城した。 【沖縄のみ行われた地上戦】 第二次世界大戦当時、日本は本土上陸への時間稼ぎとして沖縄で地上戦を行った。沖縄を戦場にする事で、本土を戦場にするのを防いだ。 →ロシアの脅威が迫る中で、日本を戦場にするのを防ぐために、朝鮮を支配しようとした。	○両方の立場で考えさせるために、1年のときに学習した戦場となり経済が衰退した欧州を例に提示する。 ●両方立場の主張を踏まえ、価値判断を行うことができている。(学びに向かう力)	一斉	10
3. 本時の学習を生かし、実践的課題に取り組む。 ・自国の本土を守るために、他国を侵略した当時の日本の判断は正しかったのか。		一斉	10